

野菜の需給・価格動向レポート(平成27年3月9日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	2月の価格情報				3月	生育及び価格の3月中旬の見通し	
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別 平均販売価格					(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格
		上旬	中旬	下旬			
キャベツ	88.05	88	87	84	88.05	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 16,840 (100) ・主産地: 愛知 (68)、千葉 (15)、神奈川 (12) 	
	83.73	83	85	84	83.73		<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 4,900t (131) ・主産地: 愛知 (63)、大阪 (23)、和歌山 (6)
ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ)	229.99	222	216	243	229.99	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込数量: 4,320 (101) ・主産地: 千葉 (47)、埼玉 (25)、茨城 (10)、輸入 (4) 	
	450.51	410	438	442	450.51		<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込数量: 230t (95) ・主産地: 徳島 (35)、奈良 (16)、香川 (12)、三重 (11)、高知 (10)
はくさい	61.12	48	42	46	61.12	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 8,960t (100) ・主産地: 茨城 (41)、兵庫 (33)、群馬 (14) 	
	68.70	62	57	59	68.70		<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 3,100t (95) ・主産地: 長崎 (50)、愛知 (16)、兵庫 (12)、熊本 (11)
ほうれんそう	307.66	463	480	453	307.66	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 1,640t (102) ・主産地: 茨城 (33)、群馬 (23)、千葉 (18)、埼玉 (15) 	
	341.25	493	530	498	341.25		<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 650t (103) ・主産地: 徳島 (70)、福岡 (13)、大阪 (7)
レタス (結球)	233.85	232	251	233	199.64	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 8,410t (100) ・主産地: 茨城 (37)、静岡 (21)、香川 (9)、兵庫 (7)、栃木 (4) 	
	226.75	234	253	246	203.61		<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 1,300t (105) ・主産地: 兵庫 (41)、徳島 (22)、香川 (11)、長崎 (9)
たまねぎ	76.15	94	97	103	76.15	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 11,180t (104) ・主産地: 北海道 (68)、静岡 (9)、輸入 (5) 	
	76.15	95	97	97	76.15		<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 3,700t (91) ・主産地: 北海道 (50)、長崎 (20)、兵庫 (14)
きゅうり	370.98	429	361	334	253.93	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 5,880t (101) ・主産地: 宮崎 (20)、群馬 (20)、千葉 (18)、埼玉 (15)、茨城 (11) 	
	350.33	412	339	314	242.77		<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 1,250t (96) ・主産地: 宮崎 (40)、高知 (24)、徳島 (17)、愛媛 (7)
トマト (大玉)	332.60	374	421	441	339.78	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 6,610t (100) ・主産地: 熊本 (32)、栃木 (20)、愛知 (11)、茨城 (6)、千葉 (5)、埼玉 (5)、福岡 (4)、群馬 (3) 	
	311.06	360	392	418	321.78		<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 1,350t (114) ・主産地: 熊本 (62)、福岡 (13)、愛知 (7)
なす	389.03	467	452	421	347.77	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 2,930t (100) ・主産地: 高知 (59)、福岡 (21)、佐賀 (5) 	
	397.74	466	445	409	330.95		<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 580t (98) ・主産地: 高知 (33)、熊本 (25)、福岡 (21)、岡山 (10)
ピーマン	551.24	700	707	685	551.24	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 1,800 (98) ・主産地: 茨城 (33)、宮崎 (33)、高知 (20)、鹿児島 (12) 	
	513.91	654	659	640	513.91		<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 530t (104) ・主産地: 宮崎 (47)、高知 (24)、鹿児島 (9)
だいこん	79.03	88	78	85	79.03	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 13,870t (100) ・主産地: 神奈川 (60)、千葉 (33) 	
	80.47	73	62	70	80.47		<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 3,000t (104) ・主産地: 鹿児島 (36)、長崎 (31)、徳島 (19)
にんじん	101.05	79	79	80	101.05	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 7,470t (102) ・主産地: 千葉 (50)、徳島 (26)、埼玉 (6)、輸入 (3) 	
	104.73	71	72	79	104.73		<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 2,500t (116) ・主産地: 鹿児島 (77)、徳島 (12)、長崎 (6)

種類	2月の価格情報					3月	生育及び価格の3月中旬の見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格			(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格		
		上旬	中旬	下旬			
い	さといも	217.95	229	238	225	217.95	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 510t (100) ・主産地: 埼玉 (38)、千葉 (37)、輸入 (5)
		219.65	251	265	261	219.65	
も	ばれいしょ	88.17	93	97	104	88.17	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量: 8,620 (97) ・主産地: 北海道 (64)、鹿児島 (34)
		88.17	86	92	94	88.17	

注: 1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均で(消費税は除く。)保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。さといもは前年実績。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、1月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4,374gで前年比100%、購入金額は、1,755円で同99%となった。

また、小売物価統計によると、2月のキャベツの小売価格は、202円で過去5か年平均比91%、レタスは、588円で同93%となり、キャベツ、レタスともに過去5か年平均を下回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額(1人当たりの購入数量と購入金額)

年	過去5か年平均		平成26年		平成27年		前年比	前年比
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)		
1月	4,272	1,640	4,379	1,775	4,374	100	99	
2月	4,485	1,666	4,646	1,742				
3月	4,868	1,811	4,958	1,878				
4月	4,765	1,855	4,871	1,887				
5月	5,089	1,917	5,146	1,993				
6月	5,056	1,902	4,998	1,976				
7月	4,402	1,737	4,542	1,770				
8月	4,315	1,731	4,275	1,846				
9月	4,688	1,844	4,745	2,035				
10月	5,191	1,902	5,455	1,973				
11月	4,990	1,700	5,291	1,704				
12月	5,146	1,927	5,233	1,977				

資料:総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」
注:過去5か年平均は、平成22~26年の平均。

主要野菜の小売価格(東京都区部)(単位:円/kg)

	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成27年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成27年	5か年比(%)
1月	212	229	108	684	827	121
2月	222	202	91	631	588	93
3月	205			500		
4月	243			453		
5月	163			365		
6月	137			317		
7月	160			332		
8月	138			400		
9月	158			591		
10月	174			469		
11月	164			429		
12月	172			546		

資料:総務省「小売物価統計調査報告」
注:1 過去5か年平均は、平成22~26年の平均。
2 平成27年2月の値は、2月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

1月の野菜の輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は、前年同月比67%の6万3千トン、加工野菜は同83%の14万2千トン、野菜全体は、同77%の20万5千トンとなった。このうち中国産野菜合計は80%の11万5千トンとなった。

生鮮野菜、加工野菜ともに前年を大幅に下回ったことから、野菜全体においても前年を大幅に下回った。

野菜の輸入数量

(単位:トン、%)

区分	平成25年		平成26年		平成27年1月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同期比	
生鮮野菜	854,042	90	884,752	104	62,812	67
加工野菜	1,854,162	97	1,784,905	96	142,197	83
野菜合計	2,708,205	95	2,669,658	99	205,009	77
うち中国産野菜合計	1,415,762	97	1,409,102	100	115,308	80
中国産シェア	52		53		56	

資料:ベジ探(原資料)財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入数量

(単位:トン、%)

品目	輸入先	平成26年1月(A)	平成27年1月(B)	(B)/(A)
たまねぎ	合計	35,836	23,755	66
	中国	28,327	20,276	72
	米国	7,127	3,312	46
にんじん	合計	6,340	3,708	58
	中国	5,769	3,634	63
	米国	34	28	82
ねぎ	合計	4,486	4,849	108
	中国	4,454	4,841	109

資料:農林水産省「植物防疫統計」注:平成27年1月は速報値。

4 トピック — コンビニエンスストアにおけるカット野菜の消費動向 —

当機構では、需要が堅調なカット野菜(簡便野菜(キャベツ等の千切り)、鍋物セット、カップサラダ、ポテトサラダ)の消費動向調査(Web調査)を平成24年度から実施している。今回は、そのうち、コンビニエンスストアにおける簡便野菜の最近の特徴を紹介する。

消費者の購入先(複数回答)でみると、コンビニエンスストア(平成26年:40.3%)は、スーパーマーケット・生協等(同93.2%)に次ぐ店舗となっており、毎年、その割合は増加傾向にある。

また、年齢別に購入した者の割合をみると、20~29歳層で最も高くなっているが、最近では、40~49歳層、50~59歳層の割合が着実に増加しており、購買層の中壮年層への広がりがうかがわれる。

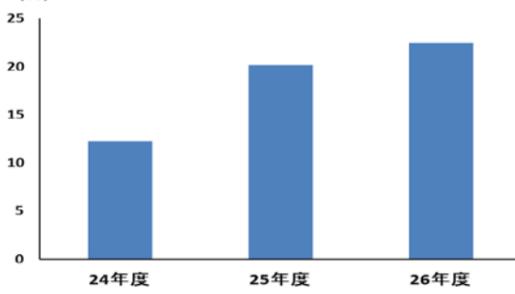
さらに、世帯属性別に購入した者の割合をみると、男女とも単身・単身世帯の割合が高くなっているが、最近では専業主婦女性の割合が増加しており、共働き世帯よりも高くなっている。

このうち、専業主婦女性がコンビニエンスストアで購入する理由をみると、「家庭での調理時間を節約できるから」が増加傾向で75.0%(平成26年)と最も高く、全世帯計の(同:68.1%)よりも高いという特徴がみられる。このほか、「好きなものを選んで購入できるから」も増加傾向にある。

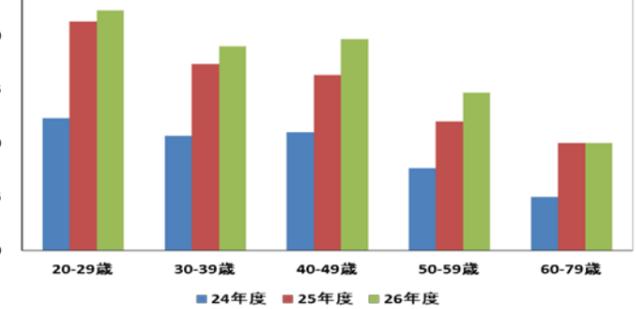
このように、コンビニエンスストアでは、店舗数の増加や、生鮮品を中心とする品揃えの充実もあり、カット野菜の購入層が、従来の若者や共働き世帯から、中壮年層や専業主婦層にも着実に広がりがつつある傾向がみられる。

今後とも核家族化の進展や共働き世帯、単身世帯の増加等に伴い、カット野菜の需要先として、コンビニエンスストア向けの割合が高まることも考えられる。

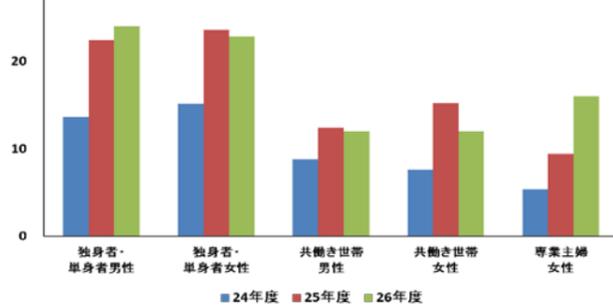
簡便野菜の購入先の推移(複数回答、以下同じ)
(コンビニエンスストア)



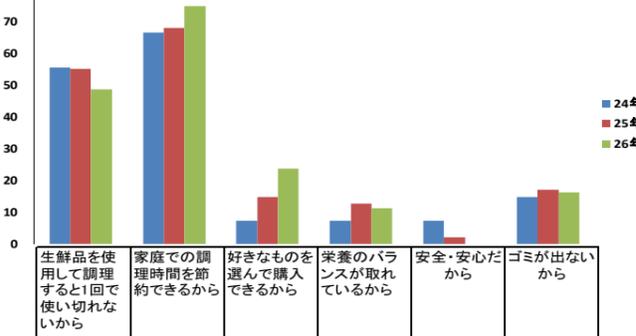
簡便野菜の年齢別の購入者割合の推移
(コンビニエンスストア)



簡便野菜の世帯属性別の購入者割合の推移
(コンビニエンスストア)



専業主婦女性が簡便野菜を購入する理由
(コンビニエンスストア)



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 前川、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、<http://vegetan.alic.go.jp/vegetable-report.html>に掲載しています。